

平成23年新春セミナー・賀詞交歓会

1月24日、新春を迎えるにあたり、日本の防災エキスパートで工学博士の平井邦彦氏をお招きして、皆さんの会社や家庭の「大震災発生時のリスク管理」に関する講演、また、国土交通省の勢田昌功氏をお招きして行政について一番ホットな話をして頂く 新春セミナー並びに賀詞交歓会がメルパーク東京で開催されました。

新 春 セ ミ ナ ー

会長 野崎正和より挨拶

国土交通省は、昨年「建設産業戦略会議」を立ち上げ「建築業が生き残れる環境整備策」として基本方針検討事項案を策定しました。ところが、政府の新年度「公共事業関連予算(案)」は実質昨年度比4%削減されました。この状態が続けば、将来を担う人材の確保や育成が出来なくなると大変危惧しております。

トンネル専門協会その他の協会にない「強み」を持っている協会だと思っています。それは「異業種間の協会」だからです。ただお互いに競合する立場だけではなく、各会員が互いに補完できる立場にもあるからです。一致団結して真剣に立ち向かえば必ず答えは見えてくるはずですよ。

協会は今年で設立10周年を迎えます。これを節目に今まで培ってきた研究成果の活用や、見直し、改善を行い、この年を「トンネル専門協会の再生元年」としましょう。そして、再度足元を見直し「人と品質を造り込むトンネル施工集団」の確立を図り、魅力的な協会に進化するようにお互い精進しましょう。



新春講演：「阪神・淡路大震災と中越地震が残す教訓」 ～皆さん震災対応は十分ですか～



講師 工学博士
長岡造形大学名誉教授
現：(財)山の暮らし再生機構
副理事長 平井邦彦 氏

○過去の震災から懸念される対処検討の必要性

- ・長周期地震動による超高層ビルの被災
- ・余震の発生や大量の降雨による二次災害の発生
- ・細街路の道路閉塞による消火活動や避難活動の阻害
- ・鉄道事故で対抗列車との衝突発生
- ・大規模な集客施設での火災の発生、デマ・流言等をきっかけとしたパニック
- ・一部の繁華街等での治安の悪化
- ・金利、株価等の変動による経済活動への影響

○重要事項

- ・診断とメンテナンス
- ・ダブル体制、バックアップ体制、保険、等
- ・事業継続計画

協会で地震に関するセミナーを開催された後 程なく、3月11日に国内観測史上最大のM9.0の東日本大震災が発生しました。

地震、また福島原発で被害に見舞われた方々及び関係者の皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。当協会からも、大震災復興支援会を開催し、義援金を寄付させていただく予定です。

行政講演：「建設生産システムでの取組み」

講師 国土交通省大臣官房技術調査課
建設システム管理企画室 室長
勢田昌功 氏



入札契約段階

適正価格での契約の推進

- ①総合評価方式
- ②ダンピング対策
- ③不調・不落対策

施工中

I 採算性悪化要因の排除

- ①三者会議・ワンデーレスポンス
- ②ASP
- ③工事関係書類の簡素化

II キャッシュフローの改善

精算段階

追加費用の適正な支払いの徹底

- ①総価契約単価合意方式の実施(H22)
- ②契約変更の円滑化

その後の意見交換会で出た質問やお願い

- ・登録トンネル基幹技能者総合評価方式での配置に対する加点促進に関しての、現場配置義務化に対する今後の課題及び見通し。
- ・低価格落札の防止として、専門工事業者の見積評価確認制度の拡大等をお願いしたい。また、作業報酬下限額以上の支払いを義務付ける「公契約」制度の導入促進をお願いしたい。
- ・専門工事業者が海外進出を行う場合の国土交通省の技術的・経済的支援策、優遇措置等の検討をお願いしたい。

賀詞交歓会



先日、ある離島の介護の団体より「東京は技術があっても心が無いのではないかと。私達は仕事が終わったらボランティアで島全体のお年寄りの介護をする。私達は技術が無くても心を通わせて力を合わせて取組んでいる。」と聞き、これが日本人の原点ではないかと思いました。

日本が戦後復興しここまで成長したのも、みんなの心が一つになって築き上げた力があつたからだと思います。

トンネル専門協ももっと力を結束し、この大変な時代を皆様と一緒に力を合わせて、乗り切っていきたいと思います。

全国から参集された会員の皆様は、互いに新年の挨拶を交わし合い、決意を新たにされました。



《来賓の方々より》

国土交通省大臣官房技術調査課長 横山 晴生 様



これからは新設に力を注ぐのと同時に今ある施設をどうやって活用していくかも大事なことだと思っています。

国土交通省総合政策局建設市場整備課長 松本 大樹様



昨年の12月から国土交通省の中で建設産業戦略会議を立上げ、1月には当面の基本方針を打出し今後具体的に取組んで行く基本的な枠を決めました。

厚生労働省労働基準局安全衛生部建設安全対策室長 田中 敏章 様



厚生労働省としても少しでも労働災害が無くなるよう、引続き労働災害の防止に努めていきます。

財団法人建設業振興基金理事 福島 稿成 様



今後リニア新幹線のトンネルが発注されるのではないかと、経済状態が悪い中でこの様なトンネルが発注される事を願っています。

厚生労働省労働基準局安全衛生部環境改善室長

亀澤 典子 様



トンネル粉じん対策について昨年委託研究を行い、粉じん暴露対策や保護具に対して調査しました。また、電動ファン付呼吸用保護具ですが、昨年の労働政策審議会で国家検定が必要であると云う結論になりました。法改定が伴うものなので検討中ではありますが、なるべく早期に実現するよう努めて参ります。

社団法人日本土木工業協会常務理事 谷田海 孝男様



土工協は今年4月に日建連やBCSの3団体が一緒になり、日本建設業連合会としてスタートします。これからも皆さんと力を合わせて次世代に続く社会整備を担っていきたいと考えています。

トンネル施工機械現場管理要員研修会

平成23年2月23日から24日にかけて、「トンネル施工機械現場管理要員研修会」が埼玉県秩父市のキャタピラージャパン秩父デモセンターで開催されました。参加者は23名でした。

目的：トンネル工事現場で適正な機械管理を行うことによって、機械トラブルによる生産性低下の防止、及び安全確保、コスト削減を図ること

カリキュラム

- ・ トンネル施工機械市場動向
- ・ 建設機械の故障とは
- ・ 機械の構成要素（エンジン、油圧ポンプ、油圧モーター）
- ・ 日常点検の必須要素
- ・ 建設機械と安全（トンネルの機械関連災害）
- ・ 「油圧ジャンボ」、「コンクリート吹付機」、「パワーショベル」、「ブレーカ」、「ホイールローダ」について
- ・ 日常始業就業点検デモンストレーション



研修終了時のアンケート調査では、出席者より「勉強になった」と言う意見の他に、次のような意見がありました。

- ・ 今回の研修内容は、どちらかと言うと初心者向けであったため、今後は職務経験年数等に応じたランク別研修を行うのが良いのではないかと。
- ・ 機械経費の削減方法については、より実践的な内容としていただきたい。
- ・ トンネル施工機械をもっと多く見たかったし、それらの具体的な点検・修理方法等についても知りたかった。

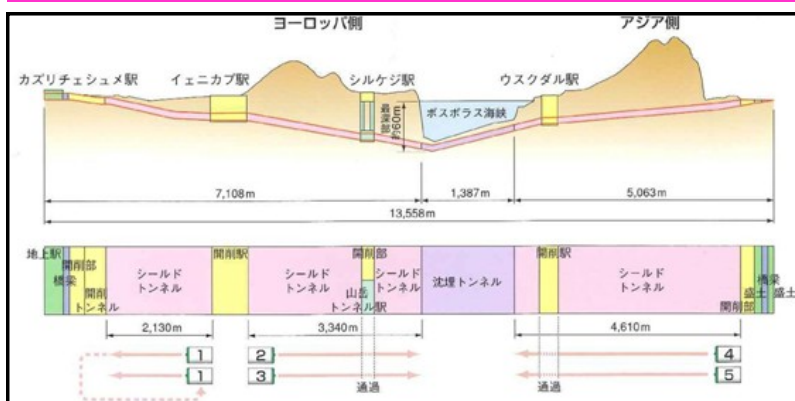
なお、本研修の継続を望む声が多いことから、上記意見も参考にし、今後さらに研修内容の充実を図り、今後も継続して行う予定です。

海外視察研修会

平成22年11月3日から9日（7日間）にかけて「ボスポラス海峡横断鉄道建設工事」（発注者＝トルコ共和国運輸通信省・鉄道・港湾・空港建設総局、施工者＝大成建設・Gama・Nurol JV）の現場で、第7回海外視察研修が開催されました。参加者は総勢30名でした。

このプロジェクトの特長、問題点及び高度な技術を必要とする点

- ① 沈埋トンネル、シールドトンネル（このプロジェクトではTBMトンネルと称している）、山岳トンネル（NATM）の3種類のトンネルを同時施工している。
- ② 沈埋トンネルを最大水深60mの海底に設置すること、しかも上下で潮流方向が異なり、上層流は黒海側からマルマラ海側へ最大4ノット、下層流は逆方向に最大2ノットの潮流があり、卓越した沈設技術と据付け精度が要求される。且つ、沈埋函体とTBMの接合についても同様であり、TBMの高い方向制御が必要とされる。又、水深60mの高水圧下での接合であり、高度な防水対策工法も必要となる。
- ③ 世界文化遺産地区で古い建物が密集した都市中心部地下駅の構築では、ガレキ、砂層での大きな沈下が予想され、大断面トンネル（NATM）等での十分な沈下対策と沈下管理が必要となってくる。
- ④ イスタンブールでは、掘削前に必ず埋蔵文化財調査をする必要があり、必ずと言っていいくらい埋蔵文化財が出土する。埋蔵文化財の調査期間は調査者まかせであり、規模、重要度にもよるが、期間がどの位かかるか不明であり、次工程の計画が立たない。また、工期延伸が長期に及ぶこともある。



接合点での記念撮影

視察団は、まずウスクダルの大成建設JVプロジェクトメイン事務所を訪問し、事業概要の説明を受けました。大成建設国際支店の近江常務工事長は、「皆さんは、日本だけでなく世界のトンネルを背負って立っていると認識しています。日本ではトンネル工事が少なくなってきているので、我々とともに世界に向かって仕事を求めていく必要があります。」と強調されました。

その後、アジアサイドのウスクダル駅からシールドトンネルを歩き、沈埋トンネルとの接合部および沈埋トンネル部を視察しました。

次に視察団はフェリーでボスポラス海峡を渡りヨーロッパサイドへ向かいました。ここではNATMで施工中のシルケジ駅を視察したほか、イェニカブ駅舎工事では埋蔵文化財調査状況も見学しました。

また、ボスポラス視察後、野崎正和会長ら3名は、協会員が施工参加または施工機械・資材等を納入している「アルジェリア東西高速道路建設工事（東工区）」も視察しました。



TBM工区避難通路掘削



イェニカブ駅TBM2, 3号機発進基地



沈埋函とTBM接合点見学

野崎会長より

「厳しい施工環境にもかかわらず日本の高い土木技術を十分発揮していた。世界に誇れる技術、現場だと感じた。」

平成22年度第2回・第3回登録トンネル基幹技能者講習

平成22年11月16日～19日に西日本会場(兵庫県三田市)にて平成22年度第2回登録トンネル基幹技能者講習が開催されました。27名の受講者は12月7日に行われた基幹技能者技能者育成委員会(外部委員2名を含む)による審査の結果、全員の合格が承認されました。

修了証番号	氏名	会社名
第10120275	大塚 憲	㈱金子組
第10120276	大八木 和秀	木部建設㈱
第10120277	竹下 翔吾	㈱興和建設
第10120278	飯干 昭博	西行建設㈱
第10120279	甲斐 友和	西行建設㈱
第10120280	青柳 和歳	庄司建設工業㈱
第10120281	芦田 大作	成豊建設㈱
第10120282	館野 武洋	成豊建設㈱
第10120283	雪野 亮	成豊建設㈱
第10120284	草間 進	西豊工業㈱
第10120285	江里 洋一	拓進建設㈱
第10120286	平山 雄一	拓進建設㈱
第10120287	伊東 茂	藤友工業㈱
第10120288	小野 晃	藤友工業㈱

修了証番号	氏名	会社名
第10120289	原 雄一郎	㈱原工業
第10120290	蛭原 幹夫	北新建設㈱
第10120291	古後 健太	北新建設㈱
第10120292	村上 春雄	北新建設㈱
第10120293	高橋 大治	横山工業㈱
第10120294	下川辺 和貴	吉岡建設㈱
第10120295	田中 勇	吉岡建設㈱
第10120296	中川 勝吾	吉岡建設㈱
第10120297	小畑 克彦	吉田直土木㈱
第10120298	川畑 順一	吉田直土木㈱
第10120299	住吉 富美男	吉田直土木㈱
第10120300	佐藤 郁夫	吉田直土木㈱
第10120301	水島 工	吉田直土木㈱

平成23年2月15日～18日に東日本会場(千葉県佐倉市)にて平成22年度第3回登録トンネル基幹技能者講習が開催されました。18名の受講者は3月2日に行われた基幹技能者技能者育成委員会(外部委員2名を含む)による審査の結果、全員の合格が承認されました。

修了証番号	氏名	会社名
第11030302	安藤 尚人	川元建設㈱
第11030303	橋本 秀樹	川元建設㈱
第11030304	福本 大輔	川元建設㈱
第11030305	立花 仁	木部建設㈱
第11030306	梅津 義弘	成豊建設㈱
第11030307	迫 勝太	成豊建設㈱
第11030308	佐々木 章雄	成豊建設㈱
第11030309	鈴木 裕樹	成豊建設㈱
第11030310	高木 勲	成豊建設㈱

修了証番号	氏名	会社名
第11030311	池田 隆男	西豊工業㈱
第11030312	山口 宏幸	西豊工業㈱
第11030313	桑村 和宏	藤友工業㈱
第11030314	倉地 裕一	北新建設㈱
第11030315	清家 敏雄	北新建設㈱
第11030316	若佐 哲也	横山工業㈱
第11030317	佐野 謙二	吉田直土木㈱
第11030318	村崎 史敏	吉田直土木㈱
第11030319	横山 喜代勝	吉田直土木㈱

会 員 動 向 (平成22年10月～)

○入会 ヤマト食品㈱ 代表取締役 市川治夫 (食材卸売)

事 務 局 便 り

○ NTS会報25号をお届けします。今回は1月24日の新春セミナー・賀詞交歓会、2月23日～24日の現場機械管理要員研修、11月3日～9日の海外視察研修会、11月・2月の第2回・第3回登録トンネル基幹技能者講習会を取り上げ記事といたしました。

○事務局内異動 : 4月1日付にて村田薫氏が事務局長に就任いたしました。以後よろしくお願いいたします。

○行事予定

- ・第4回定時社員総会 平成23年5月19日(木)
- ・登録トンネル基幹技能者講習 平成23年度第1回(西日本会場) : 平成23年7月12日(火)～7月15日(金)
平成23年度第2回(東日本会場) : 平成23年11月8日(火)～11月11日(金)
- ・秋季セミナー 平成23年9月12日(月)



この会報に対するご意見・ご感想、又ご入会に関する詳しいお問合せは下記の事務局までお願いします。



一般社団法人 Association of Nihon Tunnel Construction Sub-contractors

日本トンネル専門工事業協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-9-1 ブロードリー西新橋9階

TEL:03-5251-4150

FAX:03-3591-3550

URL : <http://www.tunnel.jp>